

JSOG Newsletter

# Reason for your choice

No.20  
April  
2017

わたしたちの医療は“新しい生命”を生み出すためのものです。ひとつでも多くの生命の誕生のために。すべての女性のために。いま、わたしたちができることを...

公益社団法人 日本産科婦人科学会  
JAPAN SOCIETY OF OBSTETRICS AND GYNECOLOGY

## 産婦人科サブスペシャリティ 婦人科腫瘍編

# その道を選んだ 先輩医師からみた魅力



### はじめに

私が医師になった2002年は日韓ワールドカップに日本中が沸いた年です。あれから14年が経過し、サッカーの世界では自分と同世代の選手はほとんどが引退しました。一方、産婦人科医となった私は同じプロフェッショナルでありながら40歳になった今でも現役として現場で力を発揮することが出来ます。これは幸せなことですが、同時に進歩する医学に適応し質の高い医療を提供するために、日々の努力が求められる厳しいことでもあります。サブスペシャリティは、産婦人科医として長い現役生活を送る上で、モチベーションを維持する重要な要素です。今回は婦人科腫瘍の魅力、私が産婦人科医になつてから経験した婦人科腫瘍における医療の変遷を振り返りながら、皆さんにお届けしたいと思います。

### ガイドラインと臨床試験

ガイドラインは標準的な治療を示すだけでなく、婦人科腫瘍の診療にEBM (Evidence-Based Medicine) の概念を浸透させました。ガイドラインが発刊された頃より本邦においても標準的初回化学療法に関する臨床試験が行われるようになりました。この中で進行卵巣癌に対するTC (Paclitaxel + Carboplatin) 療法とdose-dense TC療法の有効性を比較したJGOG 3016ではdose-dense TC療法の有効性が示され、世界に大きなインパクトを与えました。

臨床医にとって臨床試験に参加し、新たなエビデンスの構築に貢献することは喜びであり、使命であると考えます。

### 手術

手術における大きな変化の1つは、超音波凝固切開装置やシーリングデバイスなどのエネルギーデバイスの登場です。これにより結紮操作が大幅に減り、開腹手術では手術時間が短縮し、腹腔鏡手術では適応が拡大しました。婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術は2014年4月に婦人科悪性腫瘍では初めて子宮体癌IA期に対する腹腔鏡手術が保険適応となりました。現在、先進医療として行われている腹腔鏡下広汎子宮全摘術もいずれは保険適応となることが予想され、いよいよ婦人科腫瘍専門医にとって日本産科婦人科内視鏡学会技術認定医も必須のライセンスとなるでしょう。

この年になつても新たなことにチャレンジできるチャンスがあることは何物にも代えがたい喜びです。これから産婦人科医を目指す先生方は早くから腹腔鏡手術を開始することが出来るので、習得も早いはずで



### 分子標的薬

分子標的薬は従来の抗がん剤とは違い、がん細胞に特異的な分子を標的としてその機能を抑制します。腹

腔鏡手術と同様に婦人科領域では他の領域と比較して分子標的薬の導入が遅れていました。血管新生阻害薬のベバシズマブが2013年に卵巣がん、2016年5月に子宮頸がんに対して保険適応となりました。今後は免疫チェックポイント阻害薬のニボルマブやPAMP阻害薬のオラパリブが保険適応となる可能性があります。これらの薬剤は卵巣がん治療の有効なオプションとなるだけでなく、卵巣がんの予後を劇的に改善する可能性があります。将来的にはさらに多くの分子標的薬が開発され、腫瘍の特性に合わせて分子標的薬を選択する個別化医療が実現する日が来ると思います。

### 医学生・研修医の先生へのメッセージ

婦人科腫瘍の医療は確実に進歩しました。しかし、子宮体癌に対する腹腔鏡手術も、卵巣癌に対する分子標的薬も保険適応となったのはつい最近のことです。今後さらに腹腔鏡手術は適応が拡大し、分子標的薬は種類が増え適応も拡大していくと予想されます。婦人科腫瘍の医療は今まさにさらに大きな進歩を遂げようとしています。みなさんもおのづから時代を私たちが共有しましょう。いつでも門を開けて待っています。

飯田 泰志  
東京慈恵会医科大学 産婦人科  
卒後15年目  
趣味 スポーツ観戦



69th Annual Congress of Japan Society of Obstetrics and Gynecology  
**第69回日本産科婦人科学会学術講演会**  
**平和と歩む 産婦人科医学・医療**  
 開催日 2017年4月13日(木)~16日(日) 開催場所 広島県立総合体育館(広島グリーンアリーナ) 他  
 主催 広島県立総合体育館(広島グリーンアリーナ) 他

今日の産婦人科医学・医療は、まさにわが国の平和社会の形成とともに進歩してきたものであり、今後の発展のためにも平和社会とともに歩み続ける必要があります。そこで、本学術講演会のテーマを、「平和と歩む 産婦人科医学・医療」としました。広島大学学長の越智光夫先生には再生医療の膝関節外科手術への応用に関する講演を、平和と医療をテーマとした特別企画として、放射線影響研究所の児玉和紀先生に講演をお願いしています。

学会のメインの企画であるシンポジウムでは、「1... 周産期における炎症... その生理と病態」、「2... 生殖医学の最先端... 不妊症治療におけるブレイクスルーを指して」について新しい視点と独創的な研究方法を駆使した最先端の結果が討議されます。シンポジウム1に先立って、Oxford大学のRedman先生から妊娠高血圧症候群の発症病態における母体炎症反応の関与について講演をいただきます。本学会の方針として学術講演会の国際化に向け大きく舵取りが行われたことにより、International Session 国内演題が増加しております。評価が高い演題はJSOG Congress Award候補演題として、次に高水準のInternational Session Workshopを構成しJSOG Congress

### 「産婦人科医への扉」ホームページを開設しました!

このたび若手委員会より産婦人科医のリクルートを目的としたHP「産婦人科医への扉—君の力が未来になる—」を開設いたしましたのでご紹介させていただきます。サマースクールやスプリングフォーラムなどの活動報告はもちろん、全国で開催される初期研修医・医学生対象セミナーのご案内、産婦人科を専攻した理由「キメエピソード」のご紹介など、医学生や研修医の皆さんが産婦人科を選択するきっかけになるような記事も満載です。また、研修医2年目の先生を対象としたPOP2セミナーや女性医師の出産・育児とキャリアアップを含めたワークライフバランスについての活動などにも新たに取り組んでおりますので、これらもHPを通じてご報告できたらと考えております。さらに、産婦人科の魅力や、学生や研修医の実習や試験に役立つ情報を伝えるためのコンテンツ新設についても計画中です。もし「こんな情報が知りたい、伝えたい」といったご意見がございましたら参考にさせていただきたいと思っておりますのでお知らせください。  
[http://www.jsog.or.jp/to\\_medics/tobira/index.html](http://www.jsog.or.jp/to_medics/tobira/index.html)

Encouragement Award候補演題としてそれぞれ英語で発表、討論をしていただきます。International Conferenceでは、本学会がアジアの国々の産婦人科学会・医療に対して行った国際協力についての発表のセッションを設けました。また、International Workshop for Junior Fellows (IWJF)の直前のセッションでは、Manu Vats先生から臨床医がどのようにしてアカデミックキャリアを積み上げるかについてお話をさせていただきます。IWJFのテーマは「婦人科がん検診の現状」「漢方治療の適応と展望」「助産師と共同する分娩と産褥管理」の3つです。医学生を対象とした「医学生フォーラム」は例年活

**学術講演会参加費優待**

- ★ 医学生 ..... 無料
- ★ 初期研修医 (非会員) ..... 3,000円
- ★ 初期研修医 (会員) ..... 無料

※学生証、証明書をご提示ください。

# 第10回 産婦人科サマースクール

## in美ヶ原 2016.8.6<sup>Sat</sup>-7<sup>Sun</sup> SUMMER SCHOOL 2016

開催報告

第10回となるサマースクールには、236名の医学生と研修医が参加してくれました。今年は参加者に近い立場にある若手産婦人科医師が企画と運営を行い、新しい企画の1つとしてチューター制を導入しました。参加者は5〜6名のグループに分かれ、各グループに若手実行委員がチューターとして加わり、全実習を親身に指導しました。



参加者の声

**1** 日目は分娩介助実習、超音波実習、CTG判読実習、NCP R(新生児蘇生)実習と産科領域の実習を行いました。分娩やNCP Rなどのグループ実習では、徐々に参加者どうし、チューターとの距離も近くなり、息の合ったチームワークで実習を行うことができました。超音波実習では胎児計測や経膈超音波検査による診断に挑戦しました。実習で体と頭を十分に動かしたあとはお待ちかねの夕食懇親会です。懇親会は大変盛況であり、同年代の仲間や全国の産婦人科医との交流を深めることができました。また今年もNST管弦楽団による素晴らしい演奏が懇親会を盛り上げ、産婦人科医によるパフォーマンスに参加者から驚嘆の声が上がりました。

夕食懇親会後の実習復習コースでは、胎児エコーに真剣に取り組む姿や分娩介助訓練人形を使って参加者どうし楽しく実習を行う姿が印象的でした。また、男性企画、女性企画、産婦人科の魅力企画、研修企画を各部屋に分かれて開催し、若手実行委員が各企画のポスターを提示しながら、参加者との意見交換を行いました。参加者にとっては、普段なかなか聞けないことを産婦人科医に聞くことのできるよい機会になったようでした。

**2** 日目は病理学実習と手術実習から開始しました。病理学実習では症例に即した形で鑑別診断や必要な検査などをグループで討論しました。手術実習では縫合やエナジーデバイスの体験、そして内視鏡にも触れ、グループ対抗のリレーでは大いに盛り上がりました。その後、国立成育医療センターの小澤克典先生、北海道大学の馬詰武先生に最前線の研究についてとても素敵な講演をいただきました。お昼には若手医師によるフロンチョンセミナーが開催され、産婦人科の4本柱である「周産期」「腫瘍」「生殖」「ヘルスケア」それぞれの魅力について発表があり、産婦人科医のやりがいとは何なのかを感じ取っていただけたと思います。

全文は産婦人科HP内「産婦人科医への扉」に掲載中です。ぜひご覧ください！

最後にチューターを中心に楽しそうに記念撮影が行われたのがとても印象的でした。

分娩実習で赤ちゃんを取り上げたとき、妊婦役の人に「ありがとう」と言ってもらえて嬉しかったです。  
津野 桃里さん/自治医科大学(学生)

4分野の話聞くことで、より自分の将来について深く考えられるようになりました。  
岡安 慶太さん/千葉大学(学生)

産婦人科に対する情熱がすごいなと感じてぜひ将来そういう先生がいる科に進みたいと思いました。  
柿崎 結美さん/県立柏原病院(初期研修医)

産婦人科を希望する意識の高く、志のある同期や後輩と出会えたことが一番の収穫でした。  
入江 恭平さん/広島市民病院(初期研修医)

5年生なんですけど、実習に向けて参加をしようと思って来ました。これからの実習で前に出られるような内容でした。  
岩内聡太郎さん/東京慈恵会医科大学(学生)

実習内容ももちろん楽しいですが、色んな人と産婦人科について語ることが出来るいい機会になりました。  
渡邊こころさん/東京慈恵会医科大学(学生)

男性医師による企画も充実しており、「男性からみた産婦人科」も十分に堪能できた濃い1泊2日でした。  
尾坂 真さん/杏林大学(学生)

産科や婦人科の手技が多く体験でき、普段あまりできないようなことが出来たのが楽しかった。  
河井啓一郎さん/名古屋第二赤十字病院(初期研修医)



カンボジアは内戦の影響で、未だ医学教育や診療体制の構築が十分とは言えない状況です。しかし、これまですでに日本の産婦人科医の先生方がJICA母子保健事業に深く関わり継続的に支援を行ってこられた結果、Millennium Development Goal (MDG) 5A: Reduce the maternal mortality ratio by three quarters between 1990 and 2015を2015年に達成しました。そんなカンボジアで現在の大きな医療問題

### 日本産科婦人科学会公益事業

## カンボジア工場労働者のための子宮頸がんを入口とした女性のヘルスケア向上プロジェクト

JICA 草の根技術協力事業

となってきたのが子宮頸がん対策です。日本産科婦人科学会は2012年度からカンボジア産婦人科学会(SCGO)との交流を開始いたしており、2015年度からは工場労働女性を対象としたヘルスプロモーションと子宮頸がん検診の実施による早期発見・治療のための体制整備のためのプロジェクトを実施しております。必ずしも健康意識の高くない工場労働女性に対して継続的な健康教育を行い、その中で子宮頸がん検診の重要性についての意識付けも行っております。

一方で、カンボジアには子宮頸がんの予防のシステムが全く存在しないため、カンボジアの産婦人科の先生方とともに、子宮頸がん検診による早期発見と前癌病変段階での早期治療の体制の構築を図っております。すでに本会の会員の先生方にはカンボジアに向いていただき、現地で細胞診・コルポスコピー下生検・円錐切除の指導や診療体制の構築のお手伝いをしていただいております。

日本産科婦人科学会は2012年度からカンボジア産婦人科学会(SCGO)との交流を開始いたしてあり、2015年度からは工場労働女性を対象としたヘルスプロモーションと子宮頸がん検診の実施による早期発見・治療のための体制整備のためのプロジェクトを実施しております。必ずしも健康意識の高くない工場労働女性に対して継続的な健康教育を行い、その中で子宮頸がん検診の重要性についての意識付けも行っております。

▲全文はWebサイトに掲載しています。ぜひご覧ください！

医学部に入った当初、子供や若い人に関わることをしたいと漠然と思っていましたが、特に産婦人科に興味はなく、授業や実習で産婦人科について知ることですごく興味を持ち始めました。産婦人科の授業で妊孕性温存についてグループで話しあう機会があり、それが産婦人科に興味を持ったはじめの機会でした。患者さんのその後の人生に大きく影響することであり、簡単に割り切れる問題ではないと思ったことを覚えています。産婦人科の実習では、ある先生から言われた「子供からお母さんをいなくさせてはいけない」という一言がとても印象に残っています。やや語弊がある言い方ですが、そういった気概をもって働ける

## 研修医の声

研修医の方々に、産婦人科を選んだ理由や、産婦人科に寄せる夢を語って頂きました。

私が産婦人科医を志すきっかけになったのは、学生時代の臨床実習でした。学生の私でも、患者さんから必要とされ、感謝されたことに驚きました。担当した切迫早産の患者さんには、エコーを当てながら出産を楽しみな気持ちと長期入院の不安な気持ちを打ち明けられ、次の子は先生が1人前になったら診てもらいたい、と言っていたのが印象的でした。1カ月の実習で、多くの出産に立会いましたが、出産の経過は患者さんそれぞれ違い、さまざまな手技も経験でき、毎日学ぶことばかりでした。責任が大きい分やりがいのあるこの仕事を、一生の仕事にしたいと思い、産婦人科を選択しました。



私と産婦人科

のは素敵なことだと感じました。その他にも産婦人科の魅力はたくさんあると思います。胎内にいるときから最期のときまでみる科は産婦人科しかありませんし、内科的管理から手術、化学療法、そして女性のヘルスケアまで幅広い分野を診療、研究できるのも産婦人科しかありません。今後とも初心を忘れず、患者さんと真摯に向き合える産婦人科医を目指して日々研鑽を積みしたいと思います。

筑波大学医学医療系産科婦人科学・福本あすか



産婦人科を選んだ理由

初期研修は産婦人科コースを選択し、1年目は1ヵ月半産婦人科をローテーションしました。産科救急から癌のターミナルの患者さんまでさまざまな症例を経験し、多くの女性の人生に触れることができました。自分の未熟さを痛感することが多いですが、メリハリをつけて生き生きと仕事されている先生方の姿に憧れました。患者さんに寄り添い、必要とされる産婦人科医を目指して、日々の研修に励みたいと思います。

愛媛県立中央病院・本山明日香